

思春期保健セミナー コースIII

# オープンダイアローグ

筑波大学医学医療系  
産業精神医学・宇宙医学  
大井雄一  
笹原信一郎

# 本日のポイントおよびゴール

- ODの概要を知ることができる。
- 自身の体を通じて対話を経験する。
- 対話的実践を思春期支援に活用する視点ももてる。

# 研修 進行案

1315 インTRODクシヨソ・講義

1345 ワーク1 シナリオロールプレイ

1410 ワーク2 リフレクティング

1500 クロージソグ・質疑応答

1515 終了

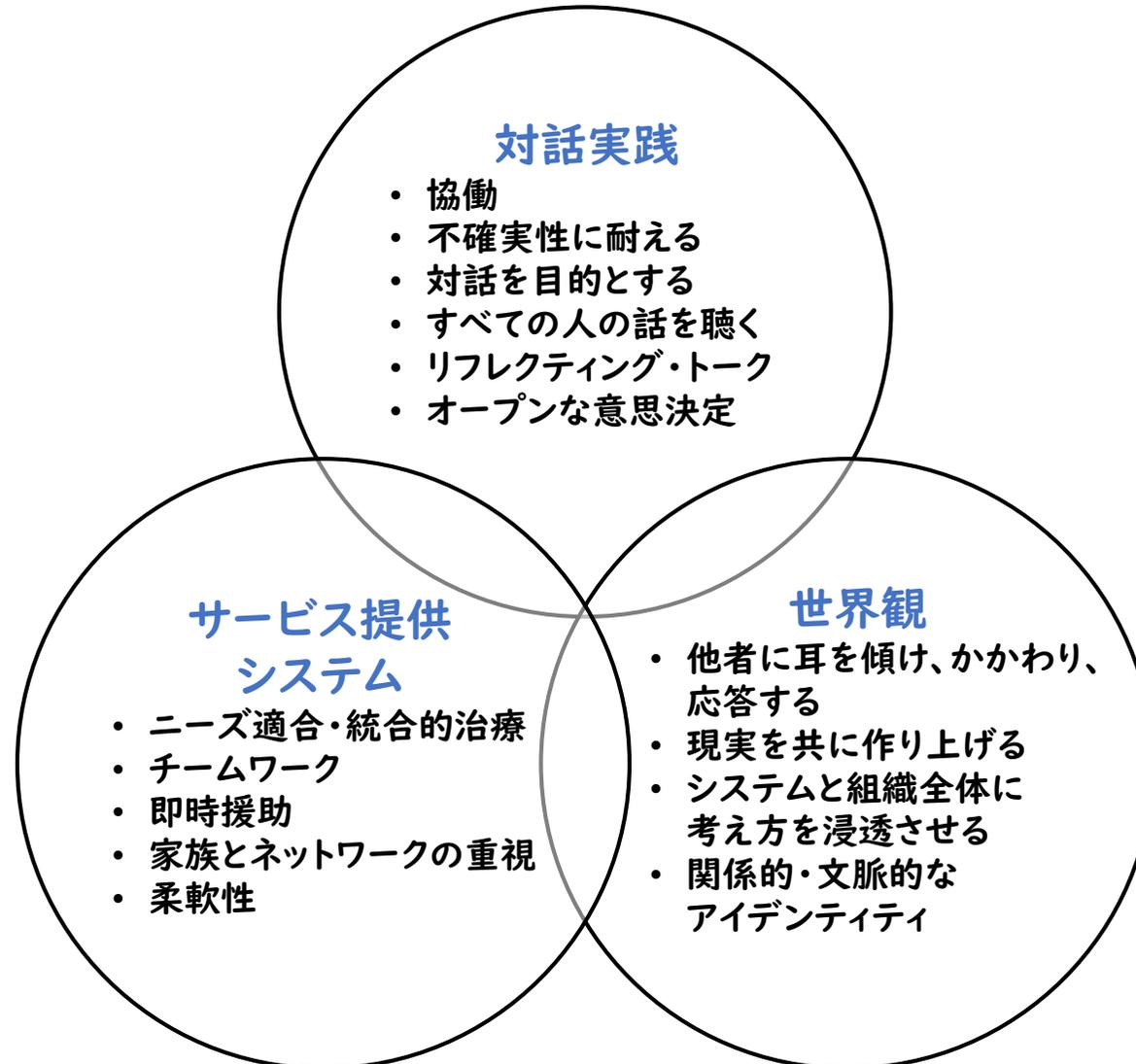
**動画「開かれた対話」 約3分**

<https://www.youtube.com/watch?v=GSXkfRSPT3I>

# Open Dialogue（開かれた対話）とは

- フィンランドの西ラップランド地方で1980年代から実践されている統合失調症のケア技法
- 家族療法が中心となり実践されてきた
- 対人ネットワークを基盤とした言語的アプローチ
- ヨーロッパ最悪の統合失調症治療結果から、初回精神病に関して世界最高の統計的結果を出すに至る
- 治療チームは危機にあるクライアントの自宅に赴き、危機が解消するまで会いつづける
- 治療のプロセスにクライアントや家族を巻き込み、臨床家たちは個人ではなくチームで働く
- 入院治療と薬物療法を可能な限り行わない

# オープンダイアログの3つの側面



# 西ラップランド地方で統合失調症と診断された患者群の2年間の予後調査の結果

	OD群	伝統的治療群
抗精神病薬 使用率	35%	100%
精神症状 残遺率	18%	50%
2年間の再発率	24%	71%
障害者手当 受給率	23%	57%

Seikkula, J., Olson, M. E. : The OPD approach to acute psychosis : Its poetics and micropolitics. Family Process, 42 (3) ; 403-18, 2003.

# オープンダイアローグの基本原則

1. 即時援助
2. ソーシャル・ネットワークを通じた事態の捉え方
3. 柔軟性と機動性
4. 責任を持つ
5. 心理的な連続性
6. 不確実性に耐える
7. ダイアローグの思想 (DIALOGISM)

# オープンダイアログが注目される理由

- 「対話」で急性精神病が改善・治癒する
- 薬や入院を極力使わない≠反精神医学
- 「診断」や「治療方針」に固執しない
- 治療チーム >> 個人精神療法
- 治療者全員がセラピストとして平等
- 透明性と「リフレクティング」
- スタッフミーティングもカンファレンスもない
- スタッフ一人あたりのケースロードが少ない
- 地域のニーズに即時対応できている

# 「治療チーム」の発想

- 個人精神療法の限界を超えられる
- 高度なスキルもカリスマもいらさない
- 二者関係の密室の開放
- 「転移」「逆転移」「退行」の“排除”
- 治療者による抱え込みや過度の依存関係が生じにくい
- 「聴取」の文脈の複線化（≡ポリフォニー）
- 「中立性」からの開放 → 治療者の変化

# OD面接の基本プロセス

手順

基本姿勢

7つの原則  
12の基本要素

ミーティングへの導入  
挨拶・自己紹介・開かれた問い  
ネットワークメンバーの参加

安心安全の確保  
フラットな関係性

問いと応答  
言語化と共有

傾聴と応答  
無知の姿勢

リフレクティング  
承認・感想・共感  
アイデア・方針

クライアントの参加  
透明性とマナー

対話の継続  
広がり・深まり

断変  
断改  
断善  
断治  
断癒

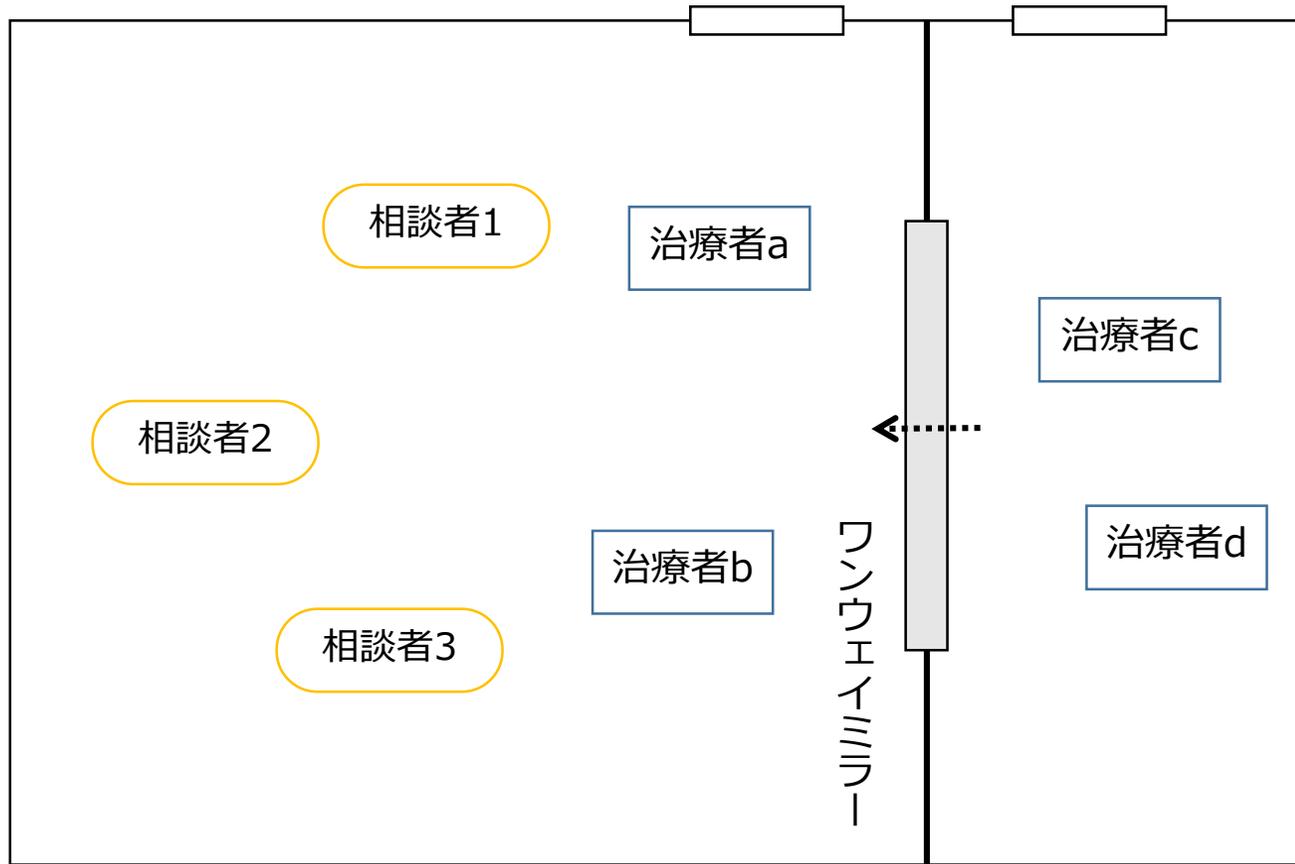
副産物

# リフレクティング



# リフレクティングの歴史

- ノルウェーの精神科医トムアンデルセン
- 家族療法のうち「ミラノシステミックモデル」におけるワンウェイミラー背後のスーパーヴィジョンの在り方とそれに対する疑問から生まれた
- 1985年3月、あるアイデアを実行に移し生まれた



- 家族に言うことを見つけるべきときに、なぜ僕らは部屋を出ていくんだらう？
- なぜ、むしろその場において、僕らの話が彼らに聞こえるように大声で話さないんだらう？
- 僕らがどんなふうに行っている、つまり僕らが見つけた結論ではなく、どんなふうに行き着いたかを見せるのは、彼らの役に立つんじゃないだらうか？

ま く と は な す

を 分 け る

やってみましょう！

# ワーク：リフレクティング

## テーマ

「仕事のなかで私が大事にしている価値」

以下役割を決めてください

A 話す人 B 聴く人 C 観察者 1 D 観察者 2

1 インタビュー (B が A に)

2 リフレクティング (C と D)

3 リフレクティングを受けての対話 (A と B)

4 4人でのシェア

目安時間

約5分

約5分

約5分

約5分

1～4で20分以内

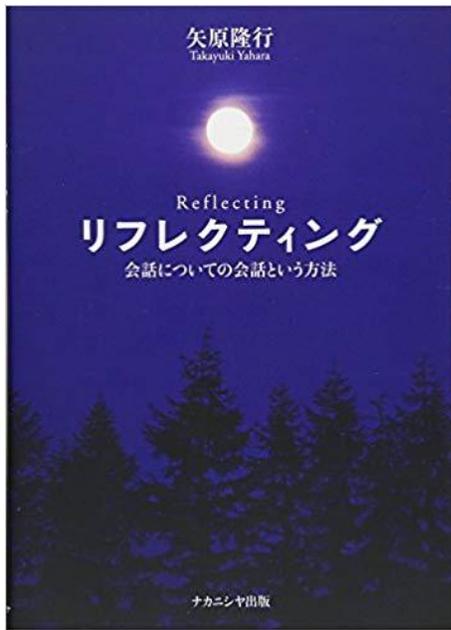
※ 合計2セッション行います。

2セッション目ルール：A⇔C B⇔D

**終了 15:10**

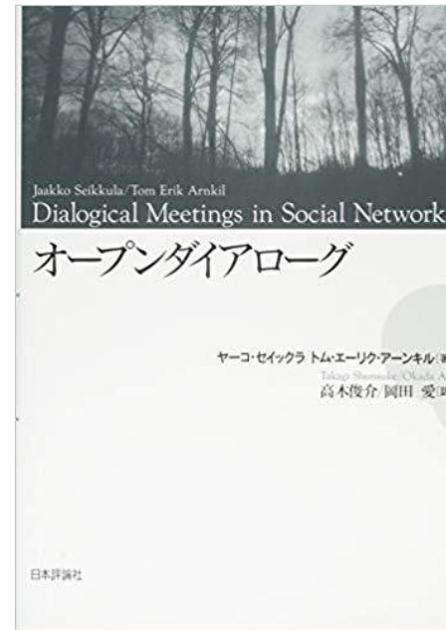
# リフレクティング時の会話の作法

- リフレクティング開始の合図の例
  - これから私たちだけで話し合いますから、聞いていただいていますか？
- その場の会話内容にもとづいた体験について話す
  - 他の文脈からもちこまない
- 断定的な話し方を避け「私」を主語にする
  - ひょっとしたら…かもしれない
  - 私は…と感じました
  - 私は…に興味がある
- チームメンバー同士で向き合って話す
  - クライアントの方は見ない、向かない（透明な壁）
- 長くなりすぎないように注意



リフレクティング  
会話についての会話という方法

矢原隆行



オープンダイアローグ

ヤーコ・セイックラ,  
トム・エーリク・  
アーンキル  
(翻訳)高木俊介, 岡田 愛



オープンダイアローグ  
とは何か

斎藤環



開かれた対話と未来  
今この瞬間に他者を思いやる

ヤーコ・セイックラ,  
トム・エーリク・  
アーンキル  
(監訳)斎藤環

# オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン Open Dialogue Network Japan (ODNJP)

オープンダイアログは、フィンランド西ラップランド地方で開発されてきた精神科医療のアプローチです。オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン(ODNJP)はオープンダイアログに関する情報提供や研修を行い、日本における質の高いオープンダイアログ実践の普及に貢献することを目的としています。

## 【新着のお知らせ】

2月11日(日)[主催イベント](#)

リフレクティング・ワークショップ～オープンな会話とオープンな会話についての会話

Open Dialogue Network Japan



<https://www.opendialogue.jp/>